

令和元年度社会福祉法人大子町社会福祉協議会事業報告

長寿化・少子化による超高齢社会の中で多様化するニーズに対し、町民の理解と協力を得ながら、福祉・保健・医療関係者、各種団体・施設・ボランティアとの連携を図り、子どもから高齢者、障がい者“だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちづくり”を目指し、各事業を実施した。

I 地域福祉事業

1 理事会・評議員会・監査の実施

理事会・評議員会・監査と次のとおり開催した。

- (1) 理事会 3回 (5/31、7/5、3/16) ※うち1回は書面決議
- (2) 評議員会 2回 (6/25、3/30) ※うち1回は書面決議
- (3) 監査 1回 (5/25)

2 社会福祉協議会の基盤の強化

- (1) 社会福祉協議会の基盤である事務局は、5名の専任職員体制において、複雑多様化する社会福祉の課題に対応するため、区長・民生委員児童委員・ボランティアを始め、保健・福祉関係者の協力を得ながら福祉の向上に努めた。
- (2) 自主財源確保のため、全戸会員を目標に賛助会費として一般・特別会費徴収に努めた。

<地区別実績額>

(単位＝円)

地区名	世帯数 ・口数	金額	内 訳		
			普通会費 700円	特別会費 1,500円	福祉施設 その他
			世帯数・口数	世帯数・口数	件数
大子	1,389	1,020,900	1,332	59	—
依上	504	358,400	497	7	—
佐原	401	288,700	391	10	—
黒沢	489	356,700	471	18	—
宮川	629	451,500	615	14	—
生瀬	593	422,300	584	9	—
袋田	628	456,400	607	21	—
上小川	619	443,700	606	13	—
下小川	176	126,400	172	4	—
その他	47	72,900	—	11	36
合計	5,475	3,997,900	5,275	155	36

3 ボランティア活動の推進

- (1) 社会福祉についての理解と関心を高めるための啓発に努めるとともにボランティアの育成及び実践活動の推進を図った。(ボランティア協力：大子特別支援学校)
- (2) ボランティア連絡協議会を開催し、町内のボランティア活動を行っている個人・グループ同士の情報交換等を行い、ボランティア活動を機能的に推進できるように努めた。ボランティア連絡協議会連絡会開催日：5/22
- (3) ボランティア活動に対する相談支援や研修会等を行い、ボランティア活動の資質の向上に努めた。
- (4) 安心してボランティア活動が行えるようボランティア活動保険の加入推進と保険料の一部助成を行った。
 - ・登録ボランティア数262名・ボランティア活動保険料助成件数155件
- (5) “子どものときから福祉の目を”をスローガンのもと、町内の全小・中学校を児童・福祉のボランティア活動協力校に指定し、助成金の交付や出張講座、相談支援、研修会等の情報提供を行い、福祉教育の推進に努めた。
- (6) ボランティアが読む「声の広報だいご」のCDを作成し、月1回町内希望施設に配布した。

4 地域福祉の推進

(1) 地域福祉活動推進事業

全地区で区長、民生委員児童委員が中心となり、地域における特性を生かして実施されているひとり暮らし高齢者等の配食サービスや会食会、訪問活動に補助金を交付し、地域住民の交流の機会の確保や地域福祉の充実に努めた。

- ・地域福祉活動推進会議開催日（補助金交付）：8/23

<地区別活動実績>

地区	実施日	内 容
大子	11/16	ひとり暮らし高齢者配食
依上	11/23	ひとり暮らし高齢者日用品配付
佐原	12/12	ひとり暮らし「友愛会」会食懇談会
黒沢	11/27	ひとり暮らし高齢者配食
宮川	11/28	ひとり暮らし高齢者日用品配付
生瀬	11/19	ひとり暮らし高齢者日用品配付
袋田	11/15	ひとり暮らし高齢者日用品配付
上小川	11/28	ひとり暮らし高齢者食品・日用品配付
下小川	9/16	敬老祝品配付

(2) 在宅介護用品等貸出事業

車いす対応福祉車両、介護用ベッドなどの無料貸出を行い、在宅介護者の負担軽減に努めるとともに要介護者が自宅で安心して生活し続けられるよう支援を行った。

<福祉車両（車いす対応車）貸出状況>

品名	総数	貸出回数
福祉車両（車いす対応）	1	80

<介護用ベッド、車いす貸出状況>

品名	総数	新規貸出件数	返却件数	本年度末貸出中件数
ギャジジベッド	53	0	3	42
車いす	42	55	53	35

(3) 権利擁護推進事業

- ひとり暮らし高齢者や障がい者等を対象に、緊急時に重要書類等を一時的に預かることで、安心して福祉サービス等を利用できるよう支援した。
- 判断能力が不十分な方を保護するため、成年後見制度の利用を希望している親族等からの相談に応じられる窓口を設置した。

<利用状況>

前年度末契約数	本年度契約者数	本年度解約者数	本年度末契約者数
3名	9名	5名	7名

(4) “安心箱” 配付事業

75歳以上のひとり暮らしの方へ、緊急入院や災害時に必要な物を入れ、保管しておく「安心箱」を民生委員児童委員の協力を得て配布した。（配布件数33名）

(5) 社協の事業をまとめた「社協パンフレット」を活用し、社協事業の啓発に努めた。

5 高齢者福祉の推進

(1) あんしんコール事業

ボランティアの協力を得て、プライバシーを守りながら、ひとり暮らし高齢者等と定期的に会話をする「あんしんコール」を実施し、在宅生活の不安の解消に努めた。

<活動実績>

開設日	開設日数	利用者数	延件数
月・水・金曜日	127日	41名	1,528件

(2) 共同募金配分金を財源に老人クラブ連絡協議会と共催で、クロッキー・ゲートボール・輪投げ・ペタンク・グラウンドゴルフ大会を実施し、高齢者の健康づくりや生きがい対策等に努めた。

(3) 共同募金配分金を財源に各地域の単位老人クラブと連携し友愛訪問活動を行い、ひとり暮らし・寝たきり高齢者となっても住み慣れた地域で同世代の仲間同士と励まし、支えあいながら住み続けられるよう地域づくりの推進に努めた。（訪問実人数86名）

6 障がい者（児）福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源に山のつどい及び障害者スポーツ大会等への協力援助を行うとともに、障がい者2団体の育成援助等、身体障がい者（児）福祉の充実に努めた。

7 母子（父子）福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源にひとり親家庭の小学校入学児童2名に対し“入学祝のつどい”を実施し、お祝いを贈呈した。

8 児童福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源に「子育て十章」を更生保護女性の会と共催で作成し、各保育所（園）・幼稚園・小学校の保護者に配布し、子育て支援に努めた。

9 福祉団体との連携及び事業への協力援助

(1) 大子町老人クラブ連絡協議会、大子町身体障害者福祉協議会、大子町母子福祉連合会、大子町遺族連合会、大子町更生保護女性の会、4団体の事務局として社協活動との連携を図りながら福祉団体の支援に努めた。

10 大子町災害ボランティアセンターの運営

令和元年東日本台風による被害からの復興支援を目的に、大子町災害ボランティアセンターを町行政等と連携をしながら運営した。

令和2年1月6日からは、“まいんボランティアセンター”へと名称を変更し、訪問活動を継続しながら、被災者の見守り寄り添い支援や地域コミュニティ作りを目的とし活動した。

○災害ボランティアセンター活動件数	延べ4,029名
○災害ボランティア活動件数	延べ690件
○被災者見守り・相談支援数	127件

11 共同募金運動

共同募金配分金の財源確保のため、区長会・女性の会等多くの関係者の協力を得て、赤い羽根募金・歳末たすけあい募金運動に努めた。

<赤い羽根共同募金地区別実績額>

(単位＝円)

地区名	実績額	付記
大子	807,500	
依上	303,600	
佐原	235,800	
黒沢	302,400	
宮川	377,400	
生瀬	346,800	
袋田	366,000	

上小川	369,000	
下小川	105,000	
法人募金	620,000	町内60か所企業
一円玉募金	48,917	各小中学校・清流高校
職域募金	74,000	各小中学校・清流高校・振興公社・役場・社協職員 他
その他	147,098	募金箱等
合計	4,083,515	

<歳末たすけあい募金地区別募金実績額> (単位=円)

地区名	金額	地区名	金額
大子	404,600	生瀬	173,700
依上	152,400	袋田	182,400
佐原	117,900	上小川	184,500
黒沢	151,200	下小川	52,500
宮川	188,700	その他	5,902
		合計	1,613,802

<赤い羽根共同募金配分事業内容> (単位=円)

区分	配分額
老人福祉活動費	425,003 円
障害児・者福祉活動費	303,348 円
母子・父子福祉活動費	24,540 円
福祉育成・援助活動費	2,532,474 円
ボランティア活動育成事業費	505,206 円
合計	3,790,571 円

<歳末たすけあい募金配分事業内容> (単位=円)

内 容	金額
温かいお正月事業 (障害福祉サービス事業所 6施設・ 高齢者福祉施設 5施設)	644,465 円
一人暮らし高齢者へのおせち品配布 (80歳以上) 489名	555,126 円
余剰金 (次年度へ繰越金)	414,211 円
合計	1,613,802 円

<災害義援金の受付業務>

災害義援金について、義援金の募集、並びに受付業務を行った。

- (1) 平成28年熊本地震義援金
- (2) 平成30年北海道胆振東部地震災害義援金
- (3) 平成30年7月豪雨災害関係義援金
- (4) 令和元年8月佐賀県豪雨災害義援金
- (5) 令和元年度 台風15号・台風19号・大雨千葉県災害義援金
- (6) 令和元年台風19号災害義援金

1.2 善意銀行の運営

- (1) 善意を持って寄せられる金品及び技能・労力の受託並びに払い出しを行った。
- (2) 不用品バザーを行い、ボランティア活動助成等の推進に努めた。
- (3) 生活つなぎ資金の貸付を行い、生活安定と自立を支援した。

<預託状況>

物品件数	金銭件数	金額	備考
20件	82件	2,978,855円	一般預託金(32件) 1,835,466円 指定寄付(2件) 22,262円 支援金(48件) 1,121,127円

<払出状況> (金銭預託は平成30年度預託金分を令和1年度で払出)

物品件数	金額	備考
6件	2,033,712円	安心箱配付事業(バスタオル・衣装ケースを配分) 19,019円
		子育て支援(幼稚園・保育所(園)・子育て支援センターへ遊具・玩具を配分) 345,079円
		車いす対応福祉車両経費 308,508円
		生活つなぎ資金貸付金(指定寄付) 975,000円
		だいが放課後児童クラブ大型プール購入費の一部 78,840円
		火災見舞金(5軒) 250,000円
		貸出用介護用品購入費 9,200円
		文化福祉会館トイレ内 エアタオル2台設置工事費用 36,720円
		その他(事務消耗品代等) 11,346円

<生活つなぎ資金貸付状況>

(単位=円)

前年度末貸付残高	本年度貸付額	本年度返済額	本年度末貸付残高
1,961,155円	975,000円	934,806円	2,001,349円

○貸出件数 40件

1 3 日常生活自立支援事業

認知症の高齢者や知的または精神的に障がいのある方など判断能力が不十分で、かつ親族などの援助が得られない方に対して、生活支援員が福祉サービスの利用手続きの援助や日常生活の金銭管理援助及び書類等の預かりサービスを行い、地域で自立した生活が送れるよう支援した。

<利用状況>

前年度末契約数	本年度契約者数	本年度解約者数	本年度契約者数	訪問件数
18名	2名	4名	16名	466件

1 4 生活福祉資金貸付事業

(1) 民生委員児童委員の協力を得て、生活福祉資金貸付、償還の相談に応じた。

○貸付件数 13件

○貸付額合計 8,237,066円（貸付利子を含む）

○3月末未償還金残高 10,098,047円（滞納額を含む）

(2) 台風19号により被災されたことによる特例貸付

○貸付件数 10件

○貸付額合計 1,400,000円

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付

○貸付件数 1件

○貸付額合計 200,000円

1 5 介護用品事業

(1) 介護用品宅配事業

高齢者等に対し、宅配の方法により、毎月の上限額の範囲内を設けて無償で介護用品を支給した。

(2) 介護用品購入費助成事業

高齢者等を介護している者に対し、上限額を設けて介護用品の購入費用の全部若しくは一部を助成した。

<内訳>

事業名	申請件数	助成額
介護用品宅配事業	594件	10,943,500円
介護用品購入助成事業	414件	11,389,402円
合計	1,008件	22,332,902円

1 6 地域支え合いサービスセンター「さとも」

※令和元年9月1日より、町受託事業の太子町在宅福祉サービスセンターから、町補助事業

の地域支え合いサービスセンター「さとも」に移行)

非営利的な有償による訪問サービスを行う住民参加型福祉供給組織「地域支え合いサービスセンターさとも」を設置し、高齢者や障がい者等の家事援助・話し相手等の様々な支援を行い、在宅での日常生活の充実を図るとともに、本人・家族の身体的・精神的負担の軽減を図る在宅福祉サービスの推進に努めた。

<大子町在宅福祉サービスセンター> 平成31年4月1日～令和元年8月31日

利用会員数	協力会員数	活動延回数
84名	30名	374回
活動延時間数		483.75 時間
(内訳) 食事の支度		84.75 時間
住居等の掃除、整理整頓		312.5 時間
生活必需品等の買い物		57.0 時間
通院及び外出付添		8.0 時間
衣類の洗濯		9.0 時間
話し相手・読み聞かせ		9.0 時間
その他		3.5 時間

<地域支え合いサービスセンター「さとも」> 令和元年9月1日～令和2年3月31日

利用会員数 (退会者を含む)	協力会員数 (退会者を含む)	活動延回数
35名	27名	364回
(内訳) ・要支援者：19名 ・要介護者：7名 ・総合支援対象者：1名 ・障がい者：1名 ・その他：7名	(内訳) ・男：5名 ・女：22名	
活動延時間数		462.0 時間
(内訳) 食事の準備・片付け		57.0 時間
住居内の掃除、整理整頓		303.9 時間
生活必需品等の買い物代行		66.0 時間
外出時の付添い		0.0 時間
衣類の洗濯・補修		9.5 時間
その他会員間で行うことがふさわしい支援		25.6 時間

II 障がい福祉サービス事業

1 7 就労継続支援事業の運営

障害者総合支援法に基づき、在宅の知的・身体・精神障がい者が通所し、日常生活に必要な社会性の訓練・軽作業を継続的に行い、自立と社会生活への適応力を養えるよう就労継続支援事業所（大子福祉作業所と若草共同作業所）の運営に努めた。

<利用状況>

大子福祉作業所（定員 20 名）		若草共同作業所（定員 20 名）	
利用申込者数	16 名	利用申込者数	21 名
開所日数	186 日	開所日数	248 日
延利用者数	2, 250 名	延利用者数	3, 692 名
1 日平均	12. 1 名	1 日平均	14. 9 名

1 8 特定相談支援事業所の運営

障害者総合支援法に基づき、利用者が有する能力や適性に応じ、自立した日常生活・社会生活を営むことができるように配慮して相談に応じた。

○契約件数 4 2 件

1 9 障がい児日中一時支援事業

III 受託事業

2 0 大子町文化福社会館『まいん』指定管理事業

- (1) 町民がいつでも安全に気持ちよく利用できるよう施設の適正な管理に努めた。
- (2) 大子町文化福社会館「まいん」に設置している全自動血圧計を活用し、「まいん」利用者の健康管理に努めた。

<部屋別貸館状況>

区分	文化ホール	観光交流 ホール	小会議室	高齢者 活動室	相談室	学習室	子育て 支援室	展示 コーナー	合計
件数	64	443	291	307	147	—	0	—	1, 252
人数	10, 359	28, 453	3, 566	1, 481	282	3, 202	0	2, 032	57, 225

2 1 ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等が、身近な地域でボランティアと一緒に生きがいと健康づくりの企画運営を行う仲間づくり活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や孤独感の解消等が図れるよう活動支援や新規サロンの立ち上げ支援を行った。

- (1) 実施個所数 19カ所 (中央型9カ所・小地域型10カ所)
 (2) 申込者数 652名
 (3) 参加延人数 6,169名

<ふれあいいいききサロン別活動実績>

名 称	場 所	実施日	実施回数	申込者数	参加延人数
ダンスくらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	36	19	400
絵手紙くらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	28	12	91
書道くらぶ	町文化福祉会館	毎月第2金曜日	9	8	69
うたごえくらぶ	町文化福祉会館	毎月第2・4木曜日	17	13	117
手芸くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3金曜日	8	28	179
囲碁くらぶ	町文化福祉会館	毎週月曜日・金曜日	60	27	203
童謡くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3水曜日	8	11	40
将棋くらぶ	町文化福祉会館	毎週木曜日・日曜日	59	25	335
いきいきヘルス体操	町文化福祉会館	毎週木曜日	34	107	956
町付地区いきいきサロン	黒沢コミュニティセンター	毎月第3火曜日	21	55	336
上郷いきいきサロン	上郷集会所	毎月第2木曜日	15	38	135
佐原ふれあいいいききサロン	佐原コミュニティセンター	毎月第2・4火曜日	28	34	483
下野宮東区いきいきサロン	下野宮東区集会所	月1回	24	46	282
いきいきサロンなませ	生瀬コミュニティセンター	第2火曜日	22	32	230
いきいきサロン前冥賀	前冥賀集会所	月1回	25	37	305
清流わかば	町内施設のグラウンドゴルフ場	月4回	52	33	882
元気アップ下小川	下小川コミュニティセンター	第3火曜日	31	64	338
近町ふれあい・いきいきサロン	近町公民館	第1金曜日・第3土曜日	32	38	567
おとめ会	上町公民館	第2月曜日	27	25	221

2.2 大子町高齢者大学運営

高齢者の生涯学習・生きがい・健康づくりの推進のため、年8回の学習会等を開催した。また「歴史講座」を公開講座とし、多くの方に学習する機会の場の提供に努めた。

<月別実施状況>

月 日	学 習 内 容・講 師	場 所	参加人数
5/14	令和元年度 (第52回) 入学式 第1回学習会 町の高齢者福祉・社協について	町文化福祉会館	41名
6/10	第2回定例町議会一般質問傍聴	町議会議場	36名
7/23	大子町の歴史 飯村 尋道 氏	町文化福祉会館	123名

2.4 家族介護者交流事業

在宅介護者に対し“介護者のつどい”と“オムツの使い方講習会”を開催し、介護者のリフレッシュと情報交換の場を提供するとともに介護技術の向上・介護負担の軽減に努めた。

<開催状況>

月 日	内 容	参加人数
6/13	オムツの使い方講習会	15名
11/15	オムツの使い方講習会	中止

2.5 放課後児童クラブ事業

保護者が就労等により昼間家庭にいない町内の小学校に通う1～5年生の児童を対象に、放課後や土曜日、長期休業期間等の学校休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、児童の健全な育成が図れるよう努めるとともに保護者の就労と子育ての両立支援を行った。

<だいが放課後児童クラブ開設状況>

年間開設日数							(単位=日)					
平日 (放課後～18:00)			土曜日 (8:00～18:00)		長期休業日 (7:30～18:00)		合計					
180			21		52		253					
児童数 (年度末) () 内長期のみ利用者数							(単位=名)					
1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計
11 (5)		14 (5)		5 (2)		10 (1)		4		3 (1)		47 (14)
月別利用人数												(単位=名)
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
804	760	774	890	722	670	632	719	701	726	758	577	8,733

2.6 子育て支援センター事業

- (1) たんぽぽ広場を開催し、製作やリズム遊び、季節の行事を行った。
- (2) 保護者からの要望に対応し、ボランティア等の協力を得て読み聞かせ、ママヨガ、月齢別おしゃべりタイムを開催し、子育て支援の充実に努めた。

<たんぽぽ広場>

開設日		開設時間		登録人数									
毎週火・金曜日		10:00～11:00		親46名・子52名									
月別利用人数												(単位=名)	
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
50	93	116	122	94	133	30	95	138	121	128	18	1,138	

(3) 0歳～就学前の子どもと保護者や妊婦等が地域で安心して子育てができるよう専門職による相談支援や一般開放を行い、同年齢の子育て中の方々と交流や情報交換ができる場を提供し、子育てしやすい環境整備に努めた。

<一般開放>

開設日		開設時間											
毎週月～金曜日および土曜日（不定期）		9:30～14:00											
月別利用人数												(単位=名)	
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
89	82	43	124	89	116	57	76	131	122	164	9	1,102	

<相談支援>

開設日	開設時間	相談人数	相談件数
毎週月～金曜日	9:00～17:00	15名	15件

(4) 子育て支援センター登録者、町内保育所（園）や幼稚園に通う幼児、ボランティア活動者等を対象に親子ふれあいコンサートを開催し、子どもたちが豊かな心や感性が育めるよう支援した。

<開催状況>

月 日	内容・公演者	参加人数
9/6	「八郎」「にんぎょう祭ばやし」 劇団プーク	254名

27 ファミリーサポートセンター事業

(1) 子育ての援助をしたい人と援助を受けたい人がお互い会員となり、子どもたちの健やかな育ちを地域ぐるみで助け合うため、ファミリーサポートセンターを設置し、保護者の就労と

子育ての両立支援を行った。

- (2) 毎月第1月曜日に子育て支援センター利用者や登録会員を対象に定期説明会や勉強会を開催し、事業の利用促進に努めた。

<活動状況>

利用会員数	協力会員数	両方会員数	利用人数	利用件数	利用時間数						
17名	45名	6名	3名	3回	9時間						
月別利用人数 (単位=名)											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3

28 生活支援体制整備事業

- (1) 日常生活上の支援を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる多様な主体による多様な生活支援、介護予防サービスの提供体制を構築するため、15名の委員を委嘱し大子町生活支援・介護予防体制整備推進協議会を6回開催した。
- (2) 生活支援コーディネータを配置し、協議会と協力しながら、ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、支援体制の充実・強化に努めた。
- (3) サービスや支援の担い手となるボランティア等の養成を目的に、養成研修を計画した。(台風19号の影響で中止)

29 被災者見守り・相談支援等事業

応急仮設住宅等へに入所された方被災者が、それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、孤立防止等のための見守り支援や、日常生活上の相談を行うとともに、被災者を関係支援機関へつなぐ等の支援を実施した。

○対象世帯数

- ・応急仮設住宅 8世帯
- ・町営住宅 17世帯
- ・在宅避難 7世帯

○訪問回数 127回

○配置職員等

- ・主任相談員(兼務) 1名
- ・よりそい訪問員 4名
- ・事務員(兼務) 1名

IV 共通

29 行政機関、団体及び福祉施設との連携強化

30 啓発事業

- (1) 地元新聞2社の協力により事業等の周知・報告を行った。
- (2) 公式ホームページを活用し、社協活動の周知を行った。
- (3) 広報「福祉だいが」を年1回(1回7,000部)発行し、住民に親しまれるよう紙面の充実を図り、全戸配布することにより社会福祉協議会の活動内容の周知に努めた。

31 総合相談支援

福祉に関することをはじめ、日常生活に関することなど、福祉の専門職が様々な相談に応じ、共に解決に向かえるように支援を行った。

32 職員の資質向上のための取り組み

33 その他